

第1回 琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会における指摘(意見)と対応(案)

1. 琵琶湖の現状及び背景の変化について

議題	指摘(意見)	対応(案)	備考
現状と課題について	・水質については、COD,TN,TP 以外にも、水利用などの視点で見た場合にデータは取られているが判断基準がない項目(例えば濁度など)で抜けているものがないか考え直す必要がある。	・目標や指標の検討において、必要に応じて COD,TN,TP 以外の項目を追加して検討した。	
	・琵琶湖の価値は、生態系サービスという概念における4つのサービス(供給、調整、文化的、基盤)に類型化して整理するとわかりやすくなる。	・琵琶湖の価値を機能面から分析し、類型化して整理し、報告書に記述する。	
	・水質について、透明度は、大正時代頃からデータがあり、近年は確実に改善傾向にあることが確認される。参考資料として提示する必要がある。 ・水質については、プランクトンの種組成等が変化し、難分解性物質などこれまでの対策では対応できない問題が生じているという認識を持つ必要がある。	・透明度に関するデータを収集し、記載した。 ・プランクトンの種組成変化や難分解性物質等については、新たな課題として認識し、総合保全計画において調査・研究を進めていくべき事項として整理する。	
	・水源かん養について、森林被害は、野生鳥獣や病害虫に加えてナラ枯れによるものも考えられる。	・表現を追加・修正した。	
	・自然的環境・景観保全について、魚類等の移動経路の分断を課題として追加する必要がある。 ・従来からの課題に対して様々な施策が実施されてきたが、施策が量的に十分ではなかったり、それでは対応できないもの(例えば、新たな外来生物の侵入など)が発生してきたことを、新たな課題として記載する必要がある。	・移動経路の分断等について課題として抽出した。 ・従来からの課題に対する施策について検証を実施し、新たな対応の必要性という観点で整理を行う。	

2. 計画の基本的事項の精査について

議題	指摘(意見)	対応(案)	備考
総合的な保全の必要性について	・保全の必要性に地球温暖化による視点を入れるべきではないか。	・地球温暖化等の視点は、保全の必要性の中に盛り込み報告書に記述する。 ・地球温暖化による新たな課題またその対策については、その関連性が十分解明されていないため、調査・研究を進めていくべき事項として整理する。	
	・地球温暖化等により新たに共通して発生すると考えられる課題を追加する必要がある。		
	・低炭素社会や循環型社会などの社会として取り組んでいくべき概念についても同じように追記していく必要がある。		
PDCA の取組について	・PDCA から一步踏み込んで、順応的管理の中で、当初の分野ごとの目標そのものも見直すというところまで枠組の中に入れ込むかは議論が必要ではないかと考える。	・PDCA の中で、あるべき姿を念頭に第2期計画の目標および指標の見直しを行うことを報告書に記述する。	
	・PDCA サイクルを今後10年間で行うのであれば、5年目に中間評価を行う必要がある。	・第2期計画期間において必要に応じて計画の点検を行うことを報告書に記述する。	
	・自然的環境の応答性は不明確な部分があるため、途中で目標に対する計画を見直すことは必要である。 ・予算的また技術的に可能かどうかを含めて、計画を実施していく中でその方法論を決定していく必要がある。	・調査・研究による新たな視点が抽出された場合は、指標・目標も含めた計画見直しを行うことを記述する。	

3. 第2期計画に向けた方向性と目標の検討について

議題	指摘（意見）	対応（案）	備考
調査・研究の取扱について	<ul style="list-style-type: none"> ・事業とは関係のない将来に関わるような研究はどのように位置づけるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・研究は基本的に保全分野の中でそれぞれ位置づけ、事業と関連性のない将来の環境に関する調査・研究については、必要性があるものとして記述する。 	
目標・指標の考え方について	<ul style="list-style-type: none"> ・自然的環境の目標については、第1期での目標が不明確であったので、具体的な目標を掲げる必要がある。 ・第2期計画では、目標を明確化し、指標についてしっかりと議論する必要がある。 ・指標については、これまで例えば面積等で考えていたが、今後は生態系の機能についても考えていく必要があり、そのための知見を蓄積することが必要である。 ・目標の評価指標と進捗管理指標の相互の関係やそれらをどのように組み合わせて、施策の効果や達成状況を定量化するののかについて示すと良い。 ・水源かん養の指標は、管理されている森林の面積や雨水浸透域の面積等が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標・指標を検討し、資料-3に提示した。 ・目標・指標の検討では、施策実施区域（場）における機能に着目し、それらと課題との関連性を整理（要因分析）することで、具体的に目標や指標を検討した。 	
目標の考え方の案について	<ul style="list-style-type: none"> ・保全3分野を残すことはよいと考える。残すのであれば、案②という考え方は無理で、案③かまたは従来の考え方でつながりを重視するのがよいと考える。 ・場を重視しすぎると、別々に施策が実施されてしまう危険性もある。保全3分野を踏襲することは大事である。 ・これまでの施策の延長という観点から、第1期計画の計画対象事項である保全3分野を踏襲することが必要である。 ・保全3分野にもう一つの軸として場という視点を加え、2次元的に考えるということは理解できる。 ・この計画調査の目的は「琵琶湖の総合保全」であり、主たる対象は琵琶湖であり、流域は従との位置づけになっていると考える。 ・一方、マザーレイク骨子案での目的は、「琵琶湖流域の総合保全」であり、湖内、湖辺域、集水域での取組が対等に位置づけられ、総合保全の対象は「琵琶湖流域」全体となっているように見えるので、今後の取りまとめにあたって留意する必要がある。 ・場という視点を加えることは良い考え方である。 ・場の区分、特に湖内や湖辺域の区分の考え方が重要である。 ・案②では、場を分けるのが難しいのではないかと考える。湖内と湖辺域は一つとしてよいのではないか。 ・案③では、目標の指標が多くなってしまふ。場によって項目を減らしてもよいのではないかと考える(例えば、森林・山地で水質保全を行う必要があるかどうか)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全3分野ごとの目標設定を資料-3に示した。 <p>(場の考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的、効果的な施策の抽出(施策間の連携)また施策の実施区域(場)の機能の保全、再生に向けた施策の展開という目的から設定する。 ・場の分類は、施策の実施区域を念頭に置きながら、場ごとの機能に着目し区分した。 	

4. その他

議題	指摘（意見）	対応（案）	備考
アンケートについて	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングという言葉の水質調査や生物調査といった表現に変えたほうがよい。 ・保全3分野それぞれについてどのような活動をしているのか分かるようにアンケートしたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を修正し、実施した。 ・アンケート対象としているのは、滋賀県内で活動分野が「環境保全を図る活動」として認証されているNPO法人であり、保全3分野以外の様々な環境保全に携わっている法人も多く存在するため、現在の内容にてアンケートを実施し、結果を保全3分野に分けて整理した。 	